

介護実習

[実習] 第3学年 通年 選択 3.5単位

《担当者名》 高橋 由紀 t-yuki@hoku-iryu-u.ac.jp 池森 康裕(デ) 鈴木 真人

【概要】

介護理念・倫理を具現化した介護を行うことができ、介護過程を展開することができるよう介護実習を行う。「尊厳の保持」や「自立支援」をふまえた介護サービスの提供、介護における安全確保とリスクマネジメントについて理解できるよう学習する。

【学修目標】

1. チームの一員として多職種や多機能と連携できる。
2. 施設運営プログラムに参加し、介護サービス全般について理解することができる。
3. すでに学習した知識を統合し、介護過程の立案・展開・評価することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1週目	実習先の理解 担当利用者決定 (高橋グループ)	施設の特徴、利用者の特徴、職員の職種、施設構造の特徴、日課、週間スケジュール、年間行事、地域での役割などを把握する。 記録の機能と目的について知る。 基礎的な日常生活の援助をしながらコミュニケーションの取り方などの基本的な介護技術を実践する。 指導者に希望や想定している介護過程の概要やその考え方を伝え助言を得る。 担当させていただく利用者を決定する。 カンファレンスを行う。	高橋
	実習先の理解 担当利用者決定 (池森グループ)	施設の特徴、利用者の特徴、職員の職種、施設構造の特徴、日課、週間スケジュール、年間行事、地域での役割などを把握する。 記録の機能と目的について知る。 基礎的な日常生活の援助をしながらコミュニケーションの取り方などの基本的な介護技術を実践する。 指導者に希望や想定している介護過程の概要やその考え方を伝え助言を得る。 担当させていただく利用者を決定する。 カンファレンスを行う。	池森
	実習先の理解 担当利用者決定 (鈴木グループ)	施設の特徴、利用者の特徴、職員の職種、施設構造の特徴、日課、週間スケジュール、年間行事、地域での役割などを把握する。 記録の機能と目的について知る。 基礎的な日常生活の援助をしながらコミュニケーションの取り方などの基本的な介護技術を実践する。 指導者に希望や想定している介護過程の概要やその考え方を伝え助言を得る。 担当させていただく利用者を決定する。 カンファレンスを行う。	鈴木
2週目	介護業務の理解 担当利用者の情報収集 (高橋グループ)	基本的な日常生活の援助をとおり、利用者の生活支援(介護)の実際を学ぶ。 介護職員の業務内容とその役割について学ぶ。 職員と行動を共にすることにより、行われている介護を見学し、その行動の意味や根拠が理解できる。 日々状況が変化する利用者の観察ができ、記録し報告することができる。 観察の技術を用いて、受け持ち利用者を総合的に把握し、介護福祉の視点から生活上の課題を明らかにし、課題の優先度を整理する。 多職種の役割をして、医療、福祉、その他の連携方法について学ぶ。 カンファレンスを行う。	高橋

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	介護業務の理解 担当利用者の情報収集 (池森グループ)	基本的な日常生活の援助をとおり、利用者の生活支援(介護)の実際を学ぶ。 介護職員の業務内容とその役割について学ぶ。 職員と行動を共にすることにより、行われている介護を見学し、その行動の意味や根拠が理解できる。 日々状況が変化する利用者の観察ができ、記録し報告することができる。 観察の技術を用いて、受け持ち利用者を総合的に把握し、介護福祉の視点から生活上の課題を明らかにし、課題の優先度を整理する。 多職種の役割をして、医療、福祉、その他の連携方法について学ぶ。 カンファレンスを行う。	池森
	介護業務の理解 担当利用者の情報収集 (鈴木グループ)	基本的な日常生活の援助をとおり、利用者の生活支援(介護)の実際を学ぶ。 介護職員の業務内容とその役割について学ぶ。 職員と行動を共にすることにより、行われている介護を見学し、その行動の意味や根拠が理解できる。 日々状況が変化する利用者の観察ができ、記録し報告することができる。 観察の技術を用いて、受け持ち利用者を総合的に把握し、介護福祉の視点から生活上の課題を明らかにし、課題の優先度を整理する。 多職種の役割をして、医療、福祉、その他の連携方法について学ぶ。 カンファレンスを行う。	鈴木
3週目	生活支援技術の実践 担当利用者の生活課題の分析と援助 計画作成 (高橋グループ)	利用者の観察に基づき、日常の基礎的介護を安全・安楽、自立に配慮して実践する。 クラブ活動、レクリエーションなどの意義の理解と活動へ積極的に参加する。 課題の優先度を踏まえ、援助目標を長期的、短期的なものとしてあげる。 介護計画を作成する。 生活の質の向上への工夫を学ぶ。 夜間実習を体験し、夜間時の利用者の特徴について理解する。 カンファレンスを行う。	高橋
	生活支援技術の実践 担当利用者の生活課題の分析と援助 計画作成 (池森グループ)	利用者の観察に基づき、日常の基礎的介護を安全・安楽、自立に配慮して実践する。 クラブ活動、レクリエーションなどの意義の理解と活動へ積極的に参加する。 課題の優先度を踏まえ、援助目標を長期的、短期的なものとしてあげる。 介護計画を作成する。 生活の質の向上への工夫を学ぶ。 夜間実習を体験し、夜間時の利用者の特徴について理解する。 カンファレンスを行う。	池森
	生活支援技術の実践 担当利用者の生活課題の分析と援助 計画作成 (鈴木グループ)	利用者の観察に基づき、日常の基礎的介護を安全・安楽、自立に配慮して実践する。 クラブ活動、レクリエーションなどの意義の理解と活動へ積極的に参加する。 課題の優先度を踏まえ、援助目標を長期的、短期的なものとしてあげる。 介護計画を作成する。 生活の質の向上への工夫を学ぶ。 夜間実習を体験し、夜間時の利用者の特徴について理解する。 カンファレンスを行う。	鈴木
4週目	個別性に配慮した生活支援技術の実	利用者のニーズを考慮した日常生活援助ができる。	高橋

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	実践 介護業務における運営管理の理解 担当利用者の介護過程の展開と評価 (高橋グループ)	総合的に利用者を理解する視点に基づき、介護過程を展開し評価する。 通所サービス、短期サービスなどの居宅サービスを通し、地域における施設の役割を知る。 倫理に基づいて専門援助行為や態度がとれる。 介護業務における運営管理について学ぶ。 カンファレンスを行う。	
	個別性に配慮した生活支援技術の実践 介護業務における運営管理の理解 担当利用者の介護過程の展開と評価 (池森グループ)	利用者のニーズを考慮した日常生活援助ができる。 総合的に利用者を理解する視点に基づき、介護過程を展開し評価する。 通所サービス、短期サービスなどの居宅サービスを通し、地域における施設の役割を知る。 倫理に基づいて専門援助行為や態度がとれる。 介護業務における運営管理について学ぶ。 カンファレンスを行う。	池森
	個別性に配慮した生活支援技術の実践 介護業務における運営管理の理解 担当利用者の介護過程の展開と評価 (鈴木グループ)	利用者のニーズを考慮した日常生活援助ができる。 総合的に利用者を理解する視点に基づき、介護過程を展開し評価する。 通所サービス、短期サービスなどの居宅サービスを通し、地域における施設の役割を知る。 倫理に基づいて専門援助行為や態度がとれる。 介護業務における運営管理について学ぶ。 カンファレンスを行う。	鈴木

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

実習評価表30%、実習の記録、カンファレンス、課題・計画など70%とし、これらの項目を総合し評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書】

介護福祉士養成講座編集委員会（編）：最新・介護福祉士養成講座10『介護総合演習・介護実習 第2版』中央法規 2022
介護福祉士養成講座編集委員会編集：最新・介護福祉士養成講座6『生活支援技術 第2版』中央法規 2022

【備考】

この科目は介護福祉士国家試験受験資格取得のための「介護実習」に該当する。

【学修の準備】

生活支援技術の教科書を読んでおくこと（予習1時間）

実習に必要な技術を練習しておくこと（予習1時間）

毎日の実習を振り返り、学んだことや課題について実習日誌にて整理すること（復習2時間）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2.福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP1.人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。

DP3.社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門職領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている

DP4.保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている

【実務経験】

高橋 由紀（介護福祉士） 池森 康裕（介護福祉士・社会福祉士） 鈴木 真人（看護師）

【実務経験を活かした教育内容】

(2026年度・看護福祉学部)

臨床および地域での介護・看護分野の専門職として実務経験を活かし、実践的教育を行う。